

日本の活火山

日本は世界でも有数の地震多発国である。日本はユーラシアプレート、北米プレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートという世界的に大きな 4 枚のプレート構造の境界部に位置している。これらのプレートがぶつかり合い、沈み込んで多くの地震と火山噴火が起こり、日本の地形と歴史が形作られてきた。

日本には世界の活火山の約 10 パーセントがある。2017 年の公式な集計では 111 であった。しかし、継続的な調査、再分類、基準変更が行われているため、この数字は常に一定ではない。例えば、2003 年に気象庁は活火山の定義を、過去 2,000 年以内に噴火があったものから過去 1 万年以内に噴火があったものへと変更し、22 の火山が新しくリストに加わった。

数百万年前、中国地方の火山活動の最盛期には、この地域には 20 もの活火山があった。現在は 2 つしか残っていない。ひとつは三瓶山で、最後の噴火は約 4,000 年前だった。もうひとつが山口県萩市近郊の、いくつかの異なる種類の火山が集まった、阿武火山群である。これはそれぞれの噴火が一回のみの単成火山群で、最後の噴火は約 9,000 年前であった。

気象庁は活火山を「A」（活動指数が特に高い）、「B」（活動指数が中程度）、「C」（活動指数が最も低い）に分類している。三瓶山は現在「C」である。